



坂本 新理事長

第66期通常総会

新理事長に坂本進氏

(坂本造機(株)会長)

補助金や税制事業で情報発信



加賀 理事長

近畿印刷産業機材協同組合は6月17日、大阪・北区のリーガロイヤルホテルにおいて第66期通常総会を開催。議案すべて原案通り承認可決され、任期満了にともなう役員改選では新理事長に坂本進氏(坂本造機(株)会長)が就任した。

同協組の新年度は、連携組織としての役割を果たすべく各種施策を実施。組合等事業向上支援事業を活用して組合員のニーズを調査し、新規事業開始の必要性や効果、負担の量的分析を行う。また、説明会や研修会、見学会などの教育情報事業に注力し、補助金事業や税制事業に関する情報を積極的に発信していく。新年度予算は1,801万8,000円。

総会終了後には、「drupa2016に見た最新印刷関連技術と市場の動向」と題し、(株)パリューマシーンインターナショナル取締役副社長の宮本泰夫氏による講演会も行われた。

引き続き催された懇親会の席で、退任の挨拶に立った加賀理事長は次のように述べた。

「森澤嘉昭前理事長の後を受けて平成16年に理事長を拝命。以来6期12年つとめさせていただいた。就任時はまだ59歳。自分を育ててくれた業界への恩返しと思い引き受けてから12年。ようやくバンタッチさせていただくことになった。

この間、組合創立60周年の開催、また私事ではあるが平成24年秋の褒章で藍綬褒章を受章したことなど、多くの思い出が私の人生に刻まれた。

一方で、在任中には平成23年の東日本大震災、つい先頃の熊本地震という自然災害による悲しい出来事もあった。東日本大震災では当社の仙台営業所も津波に流され、影も形もなくなった。そして現在、東南海地震の危険性が囁かれる中、企業としてBCP(事業継続

計画)策定の必要性を痛感している。

これまでの12年間、「この組合に入っていて良かった」と思っていたことを目標にしてきた。今後も新理事長を盛り上げ、支えいただき、「存在価値のある組合」を目指していただきたい」

続いて坂本新理事長が挨拶。「まず、自社の説明をさせていただきたい。当社は一時断裁機の製造も行っていましたが、現在は型抜機を製造している。とくに携帯電話やデジタルカメラ、ゲーム機などのフィルムを精密に型抜きする機械である。

以前は市内に本社を置いていたが、11年前に和泉市にある工業団地『テクノステージ』に本社を移している。

組合との関わりは、当組合の下部組織『KPMA若生会』への入会がきっかけとなり、そこを定年で退会した後、当組合の理事に就任。2年前から副理事長を仰せつかってきた。

いま理事長という重責を痛感している。「私で良いのか?荷が重い」と思っていたが、長年組合を引っ張ってこられた加賀前理事長に『肩の荷を降ろしていただきたい』との思いで理事長を引き受けさせていただいた。印刷との接点も少なく、分からないことも多いことからご迷惑をかけるかもしれないが、少しずつ勉強していくので、温かい目で見守っていただきたい。

厳しい経営環境の中、この組合が果たす役割は少ない。微力ながら皆様の力を借りて、任務に邁進し、精一杯努力する所存である」



6期12年の労をねぎらい、坂本新理事長から加賀理事長に花束が贈呈された



【新役員】(敬称略)

- ▷理事長…坂本進(坂本造機)
- ▷副理事長…廣瀬安宏(広瀬鉄工)/柳澤隆司(ベルパック)
- ▷理事…上野耕治(ウエノ)/加賀順三(加賀ローラ製作所)/木田庄一郎(木田鉄工所)/下垣充弘(下垣鉄工所)/藤嶋克則(富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ)/塩見哲也(メディアテクノロジージャパン)/森澤武士(モリサワ)
- ▽監事:弓倉清(共同精機)/杉山絃司(丸楽紙業)